

【キーワード】

〔施設種別〕 □高齢者施設 □障がい者施設 ■子ども施設 □住宅
 〔運営主体〕 □市区町村 ■法人 □NPO □個人 〔補助金〕 □内閣府 □国土交通省 □厚生労働省
 〔建物形式〕 □1棟単体型 ■複数棟集合型 □団地型 〔建物状況〕 ■新築 □増築 □改修 □一部改修 □既存
 〔対象者〕 □高齢者 □障がい者 ■子ども ■ファミリー ■多世代

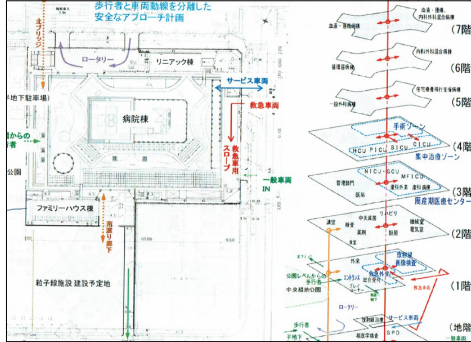


写真1. 外観写真

神戸医療産業都市構想の場である神戸市にある人工島「ポートアイランド」に位置する日本で2番目の規模を誇る小児専門病院である。1970年に須磨区高倉台の地で開院して以来、小児救急医療センターの開設や総合周産期母子医療センターとして指定されるなど3次救急医療の病院として運営してきた。2016年に現在地のポートアイランドに新築移転された。

※以下の内容は見学・ヒアリング当時のものであり、現状とは異なる可能性があります。

※事例への直接のお問い合わせはご遠慮ください。

■施設情報

所在地：兵庫県神戸市中央区港島南町1丁目6-7

運営主体：兵庫県

設計：内藤建築事務所

施設種別：病院

診療科目：精神科 アレルギー科 リウマチ科

小児科 循環器内科 腎臓内科

神経内科 血液・腫瘍内科

代謝・内分泌内科 周産期内科

新生児内科 整形外科 形成外科

脳神経外科 小児外科 泌尿器科

心臓血管外科 産科 眼科 耳鼻咽喉科

リハビリテーション科 放射線科

麻酔科 病理診断科 救急科 小児歯科

敷地面積：11,236.50㎡

建築面積：7,993.97㎡

延床面積：41,350.77㎡

構造・階数：鉄骨免震構造（一部柱頭免震）

一部SRC、RC造 基礎免震

地階1F、地上7F、屋上階3F

運営開始：昭和45年4月1日



図1. 周辺状況 (googlemapより引用)

阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた神戸の経済を立て直すため、震災復興事業の場として展開するポートアイランドに位置する。病院へは、自家用車・電車での利用を案内している。



写真1. 1階部 外来待合ストリートの様子

「そら」をテーマとして青色を中心として内装が施されている。

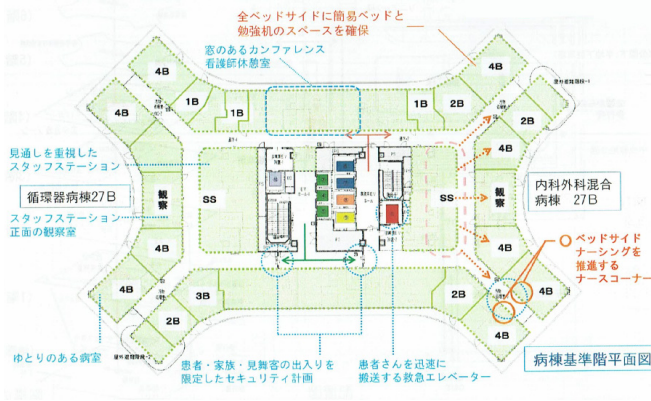


図2. 病棟基準平面図 (2016年3月28日 JIHa 主催見学会 株式会社内藤建築事務所様の配布資料より引用)

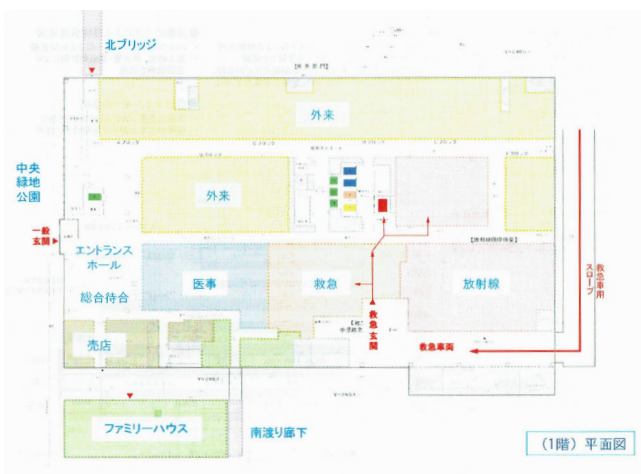


図3. 1階平面図 (2016年3月28日 JIHa 主催見学会 株式会社内藤建築事務所様の配布資料より引用)

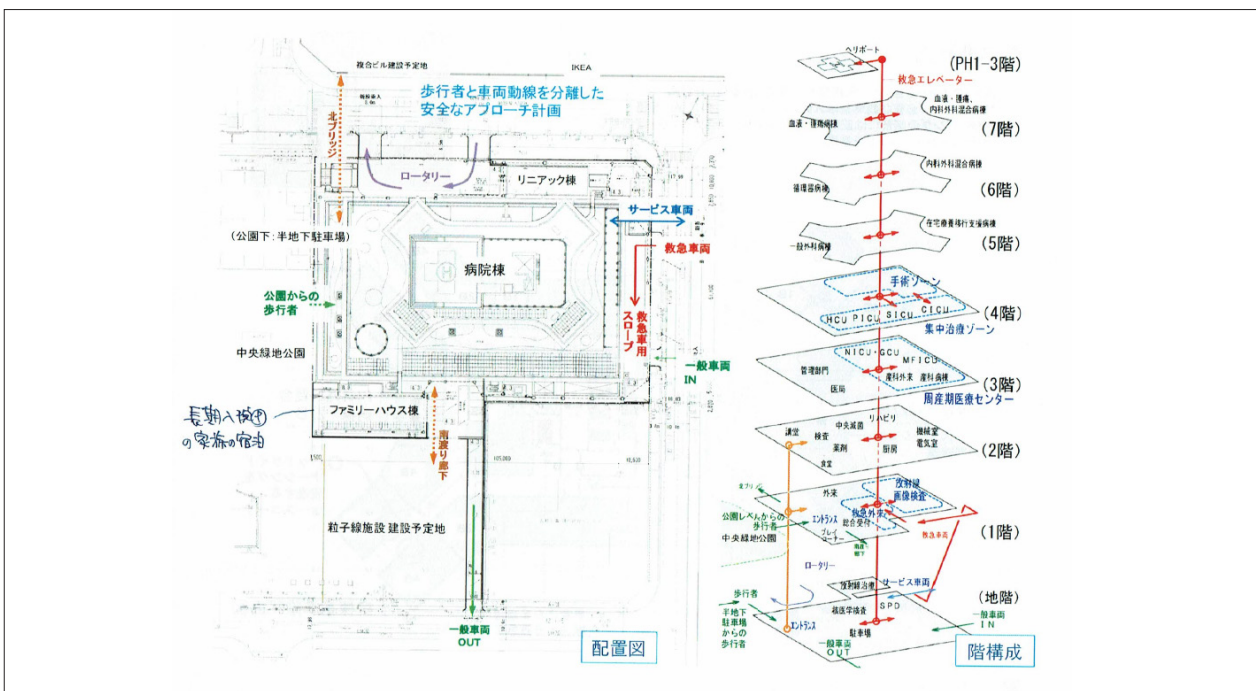


図4. 配置図および階構成図 (2016年3月28日 JIHa 主催見学会 株式会社内藤建築事務所様の配布資料より参照)

■沿革、運営概要

1970年(昭和45年)4月1日に日本で2番目の小児専門病院として須磨区高倉台に開院して以降、周産期医療や小児救急医療を取り入れ、小児、母親を含む親族の要望を重視した周産期・小児医療の総合施設である。2012年度を目処に、ポートアイランドへの移転が発表され2016年5月1日に現在地に新築移転された。

■施設概要

断面構成としては、1階部に救急外来を含めた外来部門、2階部には供給部門、3階部の一部に管理部門と周産期医療センターとして扱われる診療部門、4階部に手術ゾーンとして設置された診療部門、5～7階部は診療科目ごとの病棟部門、という構成となっている。患者の特徴として、重症の小児・産婦患者などが多く通院・入院しており、そのおよそ半数がICUに該当している。そのため病院の機能は3次救急以降の対応を求められる患者の対応を行うことを想定した病床数と設備を確保している。隣接する施設には遠隔地から通院・入院する患者家族が宿泊できる滞在施設としてファミリーハウス

(ドナルド・マクドナルド・ハウス神戸)があり、闘病環境にある患者の家族への対応を行っている。須磨の病院の老朽化に伴い新築移転が考案され、特に病床数に関してはメディカルコンサルタント会社と県で基本構想が決められた背景がある。また移転計画の際には5階、6階、7階をポートアイランドの構成をイメージして計画・設計が行われている。病院の全体形状としては航空法と日影規制の制限を受けてギリギリの調整を行い、結果 10.4m × 10.4m のスパンで建てられている。

見学時の設計者・スタッフへのヒアリング

見学日時：2016年3月28日

○全体的な建築の構成について

- ・施設内の設えとしては患者のブランケットが手すりに引っかかってしまうことを懸念し、手すりは最低限に設置することとしている。
- ・病床の個室使用率は一般病床では1室のみと低く見受けられた。重症患者が多く存在する点からモニターを用いて見守り看護を行う。そのため多床室の多い配置計画となった。
- ・麻酔によって寝かせた後、超音波検査を行うため入眠室が多数設置されている。
- ・緊急搬送口には屋根がある場所に設置したいという意向から2階の屋根下1階部に設置した。
- ・ヘリポートの扱いやすさを考慮し、照明と吹き流し、電源を確保した。
- ・当時の須磨の病院では無菌室の子が不自由に過ごしていることが見受けられたため、シャワーの設置や廊下部も無菌にするなど対策を講じた。
- ・神戸市の寝室に当たる部屋は外に面し、窓を設置するようにという指導から、仮眠室群が外に面している。

○救急病棟の11床に関して

- ・感染と死亡時対応のため、個室による平面構成とした。
- ・PICU・SICUとNSを兼用したいという意向があったが、保健所から指導が入り、分割する事となった。一方、薬材庫のみを両側の扉で兼用している。

○HCUに関して

- ・ICUの後方にあり病棟が空き次第、増床する予定だ。
- ・全床に医療ガスを設置している。HEPAフィルターも



写真3. 4. 1階エントランスホール

「みどり」をテーマとしたエントランスホール。患者・職員参加のワークショップで作成された切り絵をもととしたアートレリーフを設置している。



写真5. 4床室

参考文献

- 1) 兵庫県立こども病院 HP (<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/index.php>) 2020年6月22日参照
- 2) 神戸医療産業都市 HP (<https://www.fbri-kobe.org/kbic/about/>) 2020年6月22日参照
- 3) 見学・ヒアリング時配布資料 見学日：2016年3月28日



写真6. 4階部 CICU

ナイチンゲール型の平面構成・病床の配置としている。また感染症患者の対応として個室一部を確保している。



写真7. 3階部 NICU



写真8. 病棟部に位置するプレイルーム

プレイルームの他、院内学級として神戸市立友生支援学校の分教室が設置されている。

設置されている。非常用コンセントを標準装備している。○CICUに関して

・ナイチンゲール型の平面構成・病床の配置としている。(感染用に一室個室を確保している。2床ほど入る広さ)

○周産期医療センターについて

- ・外来は上階に設置している。
- ・落ち着いた雰囲気を目指し、木の模様壁として設えている。4床室を基本としているが、特に特徴ある設備・平面構成は見受けられなかった。一方、床頭台にはモニターのスペースが確保されていた。またHGPAの入った個室もある。
- ・産科に限らず、特殊ケースが多く置かれている状態が見受けられた。
- ・患者の食堂と職員の食堂のキッチンは兼用としていた。患者の食堂には吹抜けがあり、見下ろせる構成となっていた。
- ・異種排煙の対策として防火戸は常時しまっている状態となっている。これは神戸市の取り決めによるものである。

○検体検査の方式に関して

・外来からリフトで移送することができる。またオペ室からの検体に関してはエアシューターを使用している。

○他病棟等の施設内部の状況に関して

- ・待合室、相談室が手術前の準備の場として使われている。
- ・ICUの付き添いは、一般的には床頭台とベッドとなるソファが入ることが多いが、当病院では家具などは一緒に入らず、治療のみの環境となっている。
- ・サインやアート、内装に関しては、要望上の都合から大人の目線で施されていた。不特定多数の人が使うものではないことから、計画上ではデザインテーマを決め、それを優先させるべきだと考える。モックアップによって確認し、変更となった点も存在する。
- ・産科病棟のナースステーションのみ閉ざされている理由として重症患者の精神面に配慮する事が挙げられる。